

伊丹ルーテル教会 イースター礼拝 2020年4月12日

招きのことば：詩編 116:1-7

わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き わたしに耳を傾けてくださる。
生涯、わたしは主を呼ぼう。
死の綱がわたしにからみつき 陰府の脅威にさらされ 苦しみと嘆きを前にして
主の御名をわたしは呼ぶ。「どうか主よ、わたしの魂をお救いください。」
主は憐れみ深く、正義を行われる。わたしたちの神は情け深い。
哀れな人を守ってくださる主は 弱り果てたわたしを救ってくださる。
わたしの魂よ、再び安らうがよい 主はお前に報いてくださる。

口に出して、または心の中で、祈りましょう。

牧師：主よ、わたしをあわれんでください。
会衆：主イエス様、わたしをあわれんでください。
一同：主よ、わたしをあわれんでください。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。
われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、
父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしくより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、
からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、
あなたは私たちの罪を赦して、あなたの子どもとするために
ひとり子であるイエス・キリストを私たちにあたえてくださいました。
イエス様は私たちにかわって十字架で死んで、
私たちを思いのままに支配していた罪と死と悪魔のちからに打ち勝って下さいました。
そして、私たちにいのちを与えるために3日目によみがえってくださいました。
イエス様によって、私たちは正しく罪が赦されて、永遠のいのちをいただきます。

心から感謝をいたします。

今日は初めて、ビデオやプリントによってそれぞれのところで礼拝にあずかります。

このように共にここをあわせて礼拝できるようにしてくださいました。

いつもと雰囲気は違いますが、あなたのみ言葉を聴くこのときを祝福して下さい。

この祈りを私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 アーメン。

聖書朗読①：使徒 10:34-43

そこで、ペトロは口を開きこう言った。

「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。

神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、あなたがたはご存じでしょう。

ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。つまり、ナザレのイエスのことです。

神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。

わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。

しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。

そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しを受けられる、と証ししています。」

聖書朗読②：ヨハネ 20:1-18

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。

「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」

そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。続いて、シモン・ペトロも着いた。

彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。

イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。それから、この弟子たちは家に帰って行った。

マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」

こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」

イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」

マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

説教「来て、見て、信じた」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、み言葉をとりつぎます。

今日はイエス様が死人の中からよみがえってくださったイースター、復活祭の日曜日です。毎年、礼拝でイースターのご挨拶をしています。

「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは、「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

イエス様は金曜日に十字架につけられました。そしてその日を数えて3日目、つまり日曜日の朝によみがえってくださいました。

ヨハネの福音書 20 章 1 節には「週の初めの日」と記されています。クリスチャンたちはイエス様がよみがえられたことの証人として、旧約聖書の時代には土曜日がお休みの日で礼拝の日だったのをかえて、旧約聖書の預言した救い主、イエス様がよみがえられた日曜日の朝を「主の日」と呼んで礼拝の日としました。

なぜ当時はお仕事のはじまる日、お休みの日ではない日曜日の朝早くに、わざわざ礼拝をしたのでしょうか。それは、イエス様の復活が事実だったことをあらわしています。イエス様は十字架につけられる前から「苦しめられて死に、そして 3 日目によみがえる」と約束しておられました。そのおことば通り、事実よみがえられたので、復活をおぼえ、いつも復活したイエス様がともにいてくださることを大切にするために、礼拝を日曜日にすることにしたのです。

いろいろ苦しいことが一週間あっても、クリスチャンたちは信仰の原点に立ち返りました。そして、ハレルヤ！イエス様はたしかによみがえられました！と共に告白して、互いに喜び、たがいに励まし合いました。

そうは言っても、十字架の上で確かに死なれたイエス様が、ほんとうによみがえるということを知ることはやさしいことではありませんね。

マグダラのマリヤは金曜日に十字架のすぐ下に立っていて、イエス様が死ぬまでそこにいました。イエス様の遺体は取り下ろされて、亜麻布につつまれて、アリマタヤのヨセフという人のもっていた新しい横穴式のお墓に横たえられました。土曜日はお休みの日でした。外をうろろろすることが禁じられていましたので、マグダラのマリヤは日曜日の日の出前にお墓に行きました。お体を拭いたり、油をぬったりするお世話のために一刻も早く着きたいと思ったようです。

ところがお墓の入り口をふさいでいるはずの大きな丸い石が横に転がされていました。マリヤさんはお弟子たちを呼びに走って帰りました。ペテロとヨハネも急いできてお墓の中を見ましたが、そこに横たえてあるはずのイエス様のおからだがなく、イエス様を包んでいた亜麻布がおいてありました。お弟子たちはイエス様が「わたしは必ず死者の中から復活します」とおっしゃっていたことばをそれまではまだ理解していなかったのですが、空っぽになったお墓に来て、イエス様のからだがないことを見て、そうだ、イエス様はお約束なさった通りよみがえられたのだ、と信じたのです。

こんな風にイエス様のみ言葉を信じる信仰が与えられたのはすばらしいことです。お弟子たちは家に帰って行きました。

でもマグダラのマリヤは少し違いました。わたしのイエス様がなくなった、ということが心を心配で満たしました。11 節を見るとマリヤは墓の外で立って泣いていた、と書いています。お墓の中をのぞきこむとふたりの天使が見えました。「なぜ泣いているのですか」と尋

ねられて「私の主をだれかがもって行ってしまった」と説明しました。よみがえります、とおっしゃっていたイエス様のお言葉はすっかり心から消えてしまっていました。

私たちがイエス様を信じることができるときと、まったく忘れて心配と不安で胸が痛むときがあります。イエス様を忘れると自分の思い込みで判断します。何とかもってもらいたい常識的な説明をしようと思います。マリヤは誰かがイエス様のからだを持ち去ったに違いない、と思い込んで悲しんでいました。

イエス様がマリヤのうしろに立っておられ、振り向いたマリヤと目があいました。探しているイエス様がそこに立っておられるのに、マリヤは気づきません。目では見ているのに心の目がとざされていて、そこにおられるはずがない、と頭からきめてしまっていました。

よみがえったイエス様はそんなマリヤのもとに来てくださっているのです。そしてイエス様だとわからないでいるマリヤさんを責めるのではなく、「なぜ泣いているのか」とお尋ねになりました。なく理由などない、とマリヤが気付くためでした。マリヤは自分の必死の気持ちを話しました。そのときイエス様は「マリヤよ」と名前を呼んでくださいました。

名前を呼ばれてはっと気づいてマリヤさんは思わず「ラボニ」わたしの先生、と、いつもイエス様を呼んでいた名前でお答えしたのです。

今もよみがえられたイエス様はここにおられます。ヘブル人への手紙 13:5 で神様が「わたしは決してあなたから離れず、あなたを置き去りにはいません」と約束しておられます。でも私たちは生活のなかでいろいろなことを経験して、取り越し苦労や過ぎ越し苦労や、不安や絶望に苦しめられます。何とか気晴らしをして、気にしないようにと頑張りますが、心の深いところからまたこみ上げてきます。愛なる神様を忘れて、自分の人生で絶対に信頼できるものがない、そんなお方は本当はどこにもおられないと思って心配になります。それが神様から離れた私たちの罪の姿です。

イエス様はあなたを愛しています。そして、私たちが自分でどうしようもない心の深いところからこみあげてくる、何度拭ってもあたまをもたげてくる暗黒を、かわりに十字架で担ってください、その力をご自分の死によっておわりにしてくださいました。さらに、私たちのためによみがえってくださって、永遠にイエス様にあって安心して生きていくことができるように、生かされていることを感謝して、神様と人々に役立つ人としてはつらつと自分らしく生きていくことができるようにしてくださいました。あなたもわたしも、洗礼によってこのイエス様を信じる信仰を与えられ、聖霊によって聖書のことばを信じる歩みに導かれています。

イエス様はマリヤに、わたしにすがりつかないで、と言われました。これからはイエス様はわたしたちのために天に帰り、かわりに聖書のみ言葉を通して私たちを導いて、見えないイエス様を信仰によって信じ切って最後まで歩むことができるようにくださる聖霊を与えて

くださったのです。マリヤさんはもう泣いていません。ふたたびお弟子たちのところを訪ねて、イエス様に会いました!と証しました。

これが最初のイースターの出来事でした。日曜日の朝のことでした。マリヤさんがお弟子たちと集まって、よみがえられたイエス様の語られたことを共に覚えたように、私たちも教会に集い、今も生きて私たちに語ってくださる主イエス様の恵みのみ言葉を聞きます。私を覚えて行いなさい、と言われた通り、イエス・キリストの体と血をいただく聖餐にあずかります。

今年伊丹教会は40周年をお祝いする年ですが、長い歴史のなかで初めて、教会堂に集わないで一緒に礼拝にあずかる経験をしています。み言葉を通してイエス様が語られました。ふたたび一緒に相集って、主の恵みにあずかることができる日を待ち望みましょう。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、不自由さを耐えて歩む一週間ですが、よみがえられたイエス様が共にいてくださることをみ言葉によっていつも思い起こさせていただきながら歩みましょう。ともに礼拝堂で一緒に礼拝にあずかる日を待ち望むとともに、さきに主にあつて天国に召された方々ともやがて顔と顔をあわせてイエス様の救いを喜び合う日が来ることも楽しみに待ちましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをまもってくださいます。

アーメン。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

讚美歌 148 番：ビデオにはありませんが、お歌い下されば幸いです。

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用のかてを今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

祝福のことば

仰ぎ来い願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、それぞれのところで共に礼拝にあずかっておられる一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。アーメン。